

***** 曲 目 概 説 *****

アレクサンドル・タンスマン (Alexandre Tansman, 1897年 - 1986年)

ポーランド出身の作曲家、ピアニスト。主にフランスで活躍し、ユダヤ系のため戦時中はアメリカに亡命、その後フランスに戻り活動する。前衛音楽にははじめずフランス新古典主義様式にのっとりながらも、ポーランドやユダヤの民族音楽を加味した作風である。ギター曲にも重要な作品をいくつか残している。

カルロス・ガルデル (Carlos Gardel, 1890年 - 1935年)

アルゼンチンの歌手・俳優・作曲家。不世出のタンゴ歌手として知られ、その人気の絶頂期に飛行機事故で急逝した事と相まって、現在なおタンゴ界のみならずアルゼンチンの国民的英雄として讃えられている。彼の美声と表現力は一世を風靡、後世のタンゴ歌手もみなガルデルをその目標に掲げるほどの大きな影響を残した。また名曲も多く作曲し作品は他のタンゴ楽団もこぞって取り上げ、現在でもタンゴ歌手のほとんどがレパートリーにガルデルの作品を加えている。

アニバル・トロイロ (Anibal Troilo 1899年 - 1980年)

バンドネオン奏者として、作曲家として、そして楽団リーダーとして、大きな業績を残しました。「華麗なメロディとハーモニー」がトロイロ楽団の最大の魅力であり1940年代のブエノスアイレスのタンゴの黄金時代でトロイロはその象徴的存在でした。アストル・ピアソラにとって、最も大きな存在の師と言える人でピアソラは1939年に18歳でトロイロ楽団の一員となり、アレンジャーとしても腕をふるっていました。

アストル・ピアソラ (Astor Piazzolla 1921年 - 1992年)

アルゼンチンの作曲家、バンドネオン演奏家。タンゴを元にクラシック、ジャズの要素を融合させた独自の演奏形態を産み出した。この曲は「ブエノスアイレスの四季」に含まれる曲で、本来は彼の五重奏団（エレキ・ギター、バンドネオン、コントラバス、バイオリン、ピアノ）の為に書かれたものです。



キケ・シネーシ (Q.Sinesi 1960 -)

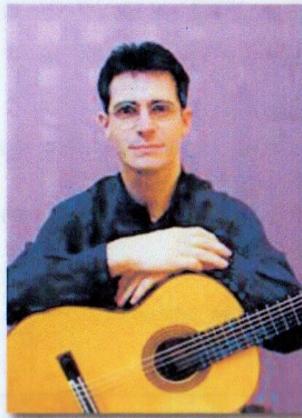
アルゼンチンの作曲家&ギタリストです。ロックやジャズ・クラシックとジャンルを超えた活動をしています。この曲は「カンドンベ」というウルグアイを代表する音楽で太鼓を叩きながら街を練り歩く行進のリズムに基づいて作曲されています。

ちなみに1870年代「カンドンベ」という太鼓のリズムと「ハバネラ」のリズム、それにブラジルやキューバのリズムが影響し合い「ミロンガ」が生まれ、さらに発展して1880年に「タンゴ」が誕生しました。

オージスギター鑑賞会 第8回鑑賞会

Leonardo Bravo

レオナルド・ブラボ
ギターリサイタル



期日：2008年6月15日（日）

開場：午後6時 開演：午後7時

場所：浦添市産業振興支援センター

結いの街「大研修室」

主催：OAGS（オージス～沖縄ギター芸術協会）

<http://nakagusuku.cool.ne.jp/guitar/>

***** プ ロ グ ラ ム *****

1. La pobrecita /A.ユパンキ
 2. La del campo /A.ユパンキ
 3. La estancia vieja /A.ユパンキ
 4. Lloran las ramas del viento /A.ユパンキ
 5. El pocas pulgas /A.ユパンキ
 6. 魔笛の主題による変奏曲 /F.ソル
 7. プレリュード 第3番、第2番、第1番 /ヴィラ・ロボス
- ～～～ 休 息 ～～～



8. カヴァティーナ組曲/A.タンスマン
プレリュード、サラバンド、スケルツィーノ、舟歌、華麗な舞曲
9. 五つの小品～木々、人、そして川 /L.ブラーーボ
はじめに、緑と黄色、ズボニールの舟、木々のための小さなレクイエム、川
10. 想いのとどく日 /C.ガルデル
11. 南 /A.トロイロ
12. ブエノスアイレスの秋 /A.ピアソラ
13. 澄み切った空 /Q.シネーシ



レオナルド・ブラボ (Leonardo Bravo)

1967年アルゼンチンに生まれる。1994年に国立ロサリオ大学芸術学部音楽講修了。ロサリオギター協会主催ギターコンテスト優勝、モサルテウムサンタフェ主催ギターコンテスト優勝、アルゼンチンギターサークル主催ギターコンテスト優勝、フンドシオン・アントルチャス主催室内楽コンテスト優勝、国立ロサリオ大学主催ギターコンテスト優勝。国立ロサリオ大学にてギターを教える。

2003年来日、翌年日本デビューリサイタルを行う。福岡の「フォレストヒルミュージックアカデミー」及び「ラテン文化センター」でクラシックギターとラテンアメリカの音楽を教える。その他作曲家としてアルゼンチン民族音楽を制作。2003年、アルゼンチンの音楽の全国作曲、演奏コンクールで次席。

これまでに独奏、アンサンブル、指揮者、としてCDを11枚リリース。

***** 曲 目 概 説 *****

アタウアルバ・ユパンキ (Atahualpa Yupanqui, 1908年 - 1992年)

アルゼンチンの folklorist、歌手、作家。鉄道員の家庭に生まれ、6歳の時、ヴァイオリンの手ほどきを受け、またギターも学ぶ。9歳の時、父親がトゥクマニ市の鉄道に配属になり、一家で移住する。その後父親が早逝したため、16歳のころから自立し、サトウキビ農場や牧場の牛追いなどいろいろな仕事をしながら放浪する。1930-40年代に多くの作品を発表。「パンパの吟遊詩人」として国民に愛されるが、その活動が反政府的と見されヨーロッパへ亡命する。その後アルゼンチンに帰国したが、後年にはフランスを拠点に活動した。過去に4回日本公演を行っている。

フェルナンド・ソル(Fernando Sor, 1778年 - 1839年)

スペイン・バルセロナ生まれの作曲家・ギター奏者。

裕福な家庭に生まれ、音楽的才能に恵まれるが軍隊にも長く務め、亡命の後は音楽に専念する。モンセラート修道院、そしてバルセロナで音楽を学ぶが、父親の死後、経済的理由で修道院に戻り、そこでギターのための初作品を仕上げる。19歳の時にバルセロナで彼の初オペラ作品「カリブソ島のテラマコ」を上演、成功を収める。

1808年、ナポレオンのスペイン侵攻ののち政府の管理職ポストに就くが、1813年のフランス人追放によって、ソルはじめフランス人に同情的な多くの芸術家や貴族が報復を恐れてスペインを捨て、フランスへ亡命。彼の作曲家としての才能とギタリストとしての能力はパリの芸術家たちの間で評判を呼び、ヨーロッパ中を旅して周るようになる。イギリスではオペラとバレエの作曲家として知られるようになり、ロシアでは皇帝ニコライ1世の戴冠式のためにバレエ曲を作曲し上演、成功を収める。

エイトル・ヴィラ=ロボス (Heitor Villa-Lobos 1887年 - 1959年)

ブラジル出身の作曲家。アマチュア音楽家であった父親と叔母から音楽の手ほどきを受け、ピアノ、クラリネット、チェロを演奏することを学んだ。父の死後、10代でカフェでチェロを弾いて生計を立てることとなった。ブラジルの音楽を収集研究し作曲に生かしこれらの活動が認められて修学金を得てパリに留学した。帰国後は、リオ・デ・ジャネイロの音楽院の院長に就任した。ブラジルの民俗音楽に根ざした作品を創作し、世界各地で演奏を行い大成功を収め、20世紀を代表する作曲家の一人となった。

